

中央農大 弁当コンテスト

松瀬さん、石山さん 優秀賞

蘇南高3年 南木曾の味詰め込む

南木曾町の蘇南高校の3年生2人が地元食材を生かして作った弁当が、中央農業大学校(前橋市)主催の「第9回お弁当コンテスト」で優秀賞に輝いた。上位4番目の賞で、生まれ育った町の食材を広く知ってもらいたいと、探究学習の時間を使い開発した。(大嵩崎慧)



南木曾の食材を生かした弁当と開発した松瀬さん(左)、石山さん

松瀬凛々里さん(18)と石山優花さん(18)が作った。メインの食材は広瀬地区で昔から食べられてきた山菜のイタドリで、ギョーザの具やご飯に混ぜ込むなどした。柿其地区で造る「柿其味噌」も使うなどの計7品を弁当に詰めた。コンクールには高校や専門学校から482点の応募があった。

2人は受けた恩を別の人へ送る「恩送り」をテーマに、ふるさとへできることを探る中、地域食材を使い地元を元気づけることを考えた。下処理をしたイタバ

ドリは「程よい酸味とシャキシャキとした歯応えが魅力」といい、地域の保存会から食材提供も受けてメニューを試行錯誤してきた。

25日、町役場に向井裕明町長を表敬訪問した。向井町長は一部を再現した弁当を試食し、「見た目も味も地元を感じられていい。地域に広まっていい出来上がりだ」とたたえた。石山さんは「恩送りの思いが成果として実りとてもうれしい」と話し、松瀬さんは「南木曾の食材がより広まるきっかけになれば」と願った。